

未来世代に何を残していくのか

日本科学者会議

戦後の急激な高度経済成長の矛盾が顕在化し始めた 1965 年に日本科学者会議 (JSA) は創立されました。学術が戦争の遂行に協力したことに深く反省し、人類の福祉と平和のために科学の自主的・総合的な発展を目指し、科学者の社会的責任を果たすことを活動理念としています。この理念に賛同した全国各地の大学教員や研究者をはじめとして、医師や弁護士、教諭、民間研究者、市民の方々など幅広い分野にわたって多くの人々が積極的に JSA へ加入しています。これまで、核兵器の廃絶を含む平和・軍縮の課題、環境を保全し人間のいのちとくらしを守る課題、大学の自治を守り科学者の権利・地位を確立する課題など、時宜にかなった重要な課題の提起とその解決に向けた活動を継続してきました。

近年になって IT 技術の急速な進化は、情報の収集や処理、伝達の方法を激変させています。誰もが瞬時に大量の情報共有が可能となりました。それにより、事実と見間違ふ映像や記述が意図的かつ巧妙に作成され、SNS を介して不特定多数の人々に瞬時に拡散される事態となっています。民主主義さえも揺るがしかねない情報が世界を駆け巡っているといっても過言ではありません。

このように激変する社会の中で、新自由主義的排外主義が台頭し、武力侵攻による核抑止論が復活し、強大な経済力を背景とした大国の横暴により国際関係にも軋轢が生じています。戦争や紛争などの直接的暴力が継続されることで、貧困や飢餓、格差や分断、排除などの構造的暴力の拡大とともにフェイク・ニュースやヘイト・スピーチなどの暴力も助長されています。危機的な社会が再来するたびに、不利益を被るのは社会的弱者（子どもや女性、高齢者、障がい者、マイノリティー、移民、非正規労働者など）であることは明白な事実です。暴力から逃れることができずに今に至っている状況を未来世代に引き継ぐことはできません。人間がこれまでに獲得してきた理性と英知を以て、暴力を回避するための方策を探索することが必要とされます。

戦後 80 年間にわたって、日本による他国への武力行使はありませんでした。それは、日本国憲法が国民に支持されてきたからにほかなりません。この憲法には、人権保障を支える多様性 (Diversity) や公平性 (Equity)、包摂性 (Inclusion) という DEI の視点も含まれています。また、憲法の平和主義は、持続可能で安定した社会を求めるのであれば多様な自然と社会の構築が必要であり、何よりも恒久的な平和が不可欠であることを示唆しています。そのためには、すべての暴力を回避して恒久平和を実現するためのしなやかでしたたかな内政と外交の戦略が必要です。

高度な IT 技術の進化、成熟社会の指標ともなる DEI への対応、人工物質による環境汚染や危機的な温暖化という地球規模の環境問題など、これまで人類が経験したことのない社会事象が発現しており、政治や経済だけでなく個人のライフスタイルや価値観、感性にまで大きな影響を与えています。時代の転換期といわれる今日においても、JSA 創立時に掲げられた設立理念と恒久平和の追求という普遍的価値は色褪せるものではなく、むしろ輝きを増しているといえます。持続可能で安全・安心な共生社会の創生に向けて、学際的分野における科学的知見と DEI の視点を研ぎ澄まし、JSA の活動を未来世代につなげていくことが必要と考えます。

今回のシンポジウムでは、恒久平和を目指すにあたって、人類史的に暴力の発生とその抑制について再考し、避戦に向けた内政・外交のあり方と人権安全保障について DEI の視点から考察します。

(2025.10.16)